

# 知立まつり

5月3日



## 知立神社

知立神社は雨乞いや蝗除けのご利益があるとされ、古くから西三河の二十余郷、四十余村の氏神として広く崇められていました。江戸時代には東海道沿いに位置し、多くの旅人たちが知立神社を訪れました。境内には永正6年(1509)に再建されたと伝えられる多宝塔があります。神仏分離令による取り壊しの危機を乗り越え現在に至ります。



令和6年  
5月3日祝

### 知立神社神事案内

午前9時  
**赤瓢箪** 「長篠町豊受神社より知立神社へ」



午後2時  
**神輿渡御** 「山屋敷町公民館より知立神社へ」



中新町

中新町にはまつりについて記された『中町祭礼帳』があり、県の文化財に指定されている。それによると、江戸時代には、文楽の他、からくり人形「百合若高麗軍記」などを上演していたことがわかる。現在は山車文楽を上演している。



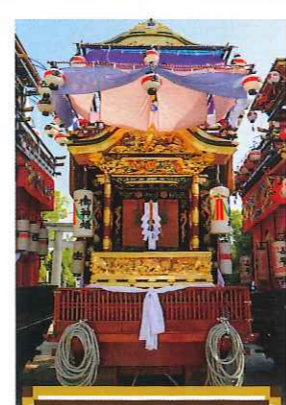
本町

江戸時代には、からくり人形「聖徳太子絵伝記」を上演していた。大正時代以降になると人形芝居に替わり手踊りが上演されていたが、昭和56年(1981)に山車文楽を復活させた。本町の山車の高欄には井村徹堂による篆書が飾られている。徹堂は俳人の井村祖風の養子で、篆刻ではその名を知られた人物であった。文化人の多かった本町らしい特徴である。



西町

西町は現在でも山車からくりを継承している唯一の町である。江戸時代の頃には西町のほか山町・中町・本町も山車からくりを上演していた。現在演目は「一の谷合戦」と「平治合戦」が演じられている。



宝町

宝町は昭和22年(1947)に列谷市泉田から山車を買受け、奉納するようになった。この山車はもともとは矢作町(岡崎市)にあったものといわれる。また、昭和33年(1958)までは、獅子舞や歌舞伎を上演していた。平成16年(2004)から新たに山車文楽を上演。



山町

山町には、まつりなどについて記された『山町永代帳』があり、安政7年(1860)に山町と西町が野田村の昌福寺(現列谷市野田町)の大松1本を買つけ、台輪を製作したことが記されている。大正5年(1916)頃までは、からくり人形芝居「平治合戦」が上演されていた。現在は山車文楽を上演している。